

＜関係法令等＞
 ・日本国憲法 ・教育基本法
 ・学習指導要領 ・東京都教育目標
 ・豊島区教育目標 等

＜学校教育目標＞
 ◎みんな考えて
 ○みんな仲良く
 ○みんな元気に

・学校や地域の実態
 ・地域の期待や願い
 ・保護者の期待や願い
 ・期待される児童像 等

学校経営方針（学力向上に関して）

○ 基礎的基本的な学習内容の徹底理解
 ○ 一人一人の児童の実態把握、及び個を伸ばす指導の具体化
 ○ 特色ある教育活動の推進

☆教員間における指導観の統一化
 ☆個に応じた指導の充実と時間確保
 ☆少人数指導の充実

各教科の指導の重点

＜国語＞語彙を増やし語感を高め、自分の考えや意図が正確に伝えられるような力を伸ばす。
 ＜社会＞資料を正確に読み取り分析するとともに、問題解決的な学習力を高める。
 ＜算数＞考える楽しさを味わい、見通しをもち筋道をたてて考える力を育てる。
 ＜理科＞自然や科学に興味・関心を持ち、科学的な思考力を育てる。
 ＜生活＞具体的な活動や体験、他とのかかわり、自分自身や自分の生活、生活上必要な習慣や技能、自立への基礎を育む。
 ＜音楽＞音楽朝会や音楽科を通して豊かな心と表現の基礎的な能力を育てる。
 ＜図工＞造形的な創作活動を通して豊かな心と表現の基礎的な能力を育てる。
 ＜家庭＞家庭生活の大切さを実感し、日常生活に必要な基礎・基本の力を育む。
 ＜体育＞体育朝会や体育科を通して運動に親しむ資質や能力を育てると共に、健康の保持増進と体力の向上を図る。

総合的な学習の時間の指導の重点

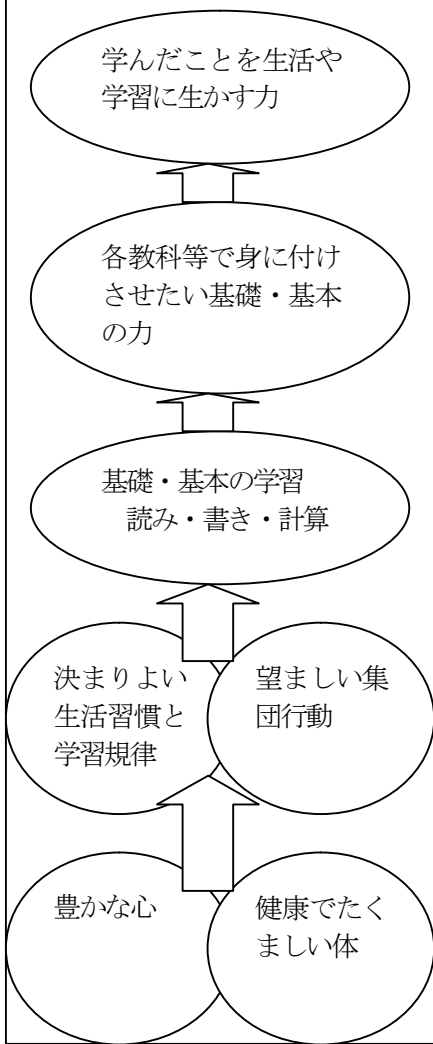
○自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
 ○学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

生活指導の指導の重点

○きまりや規律を守り、主体的に安全で快適な学校生活づくりができる児童を育てる。
 ○学校不応の早期発見と組織的対応を図る。

文成小学校における確かな学力

文成小学校では、学習指導要領に示された基礎・基本を重視し、次の力を育成する。
 ★「学んだことを生活や学習に生かすことができる力」を「確かな学力」ととらえる。



学力調査結果を受けて

(国語) 聞く話すを中心としたコミュニケーション能力向上に向けての取り組みをする。また、読書への取り組みを充実させる。
 (算数) 反復学習を繰り返して計算力を高めるとともに、数学的な考え方を伸ばす指導の充実
 (社会) 思考力・判断力の向上を図る指導の充実
 (理科) 科学的思考力を高める指導の実施

道徳教育の指導の重点

・「心のクリーニングの時間」である道徳の時間の改善を図り、一人一人の児童の道徳的実践力を高める。
 ・全教育活動を通して、互いに人格や人権を尊重し合い、相手を思いやる気持ちをもった言動や実践ができるよう、道徳性の育成を図る。
 ・自他の生命や崇高な存在に対して、尊敬や感謝、畏敬の念をもって接する態度や心情を育てる。

特別活動の指導の重点

・一人一人を大切に、助け合い励まし合う温かい人間関係を築くとともに、自分たちの諸問題を自発的・自治的に解決していく力を育てる。
 ・児童集会、たてわり班遊び、学校行事、クラブ活動等を通して上学年に対する尊敬や感謝の気持ち、下学年に対するいたわりや思いやりの心を育む。

キャリア教育の重点

・一人一人の能力や適正を把握し、自己の将来に希望や生きがいをもてるよう指導援助する。
 ・6年生については、学級活動の授業や学校説明会、校区別協議会等を通して中学校との連携を図り、進学への不安を解消させる。

文成小学校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・体験的・問題解決的な学習の重視 ・算数少人数指導やチームティーチングの工夫の充実 ・発展的な学習や補充的な学習の実施 ・指導時間の確保と充実	・午後学習の時間の確保と内容の充実 ・朝読書 20分間を週3回 ・毎日3校時開始前に基礎学習の時間を設定 ・サイエンスフェスタ、文成まつりの実施	・前年度教育研究校としての研究活動（検証） ・初任者、2・3年次研修の充実 ・年5回の生活指導全体会 ・都研修センター、区教育会の研修等への積極的な参加 ・特別支援教育等研修の充実	・評価規準・基準に基づく評価方法の共通理解と評価技術に関する情報の共有化と技術の向上 ・児童による授業診断の実施と分析による授業改善	・毎学期に1週間の学校公開。 ・道徳授業地区公開講座 ・積極的な学校公開と地区行事への積極的な参加 ・学習ボランティアからの支援や協力 ・ノーテレビウィーク設定

平成21年度 文成小学校「授業改善推進プラン」

学校名 豊島区立文成小学校

校長名 今 直樹

1. 平成20年度までの授業改善に係わる取り組みの成果と課題

平成20年度までに実施した授業改善の取組	実施に伴う成果と課題
<p>全体としての取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業時数の確保。低学年は、週時程に1時間の授業の増加をして、生活科や英語活動を設定した。 ○基礎学習の時間を、毎日10分間設定した。また、午後学習の時間を週に3回程度実施した。 ○朝読書の時間を週3日設定した。 ○学力調査の各教科や調査項目の正答率や誤答分析から、指導上の問題を把握し、課題を設定して対応策を検討した。 ○教育ビジョン推進校として、理科・生活科の指導力向上を図ることを目標に、組織的に校内研究を進めた。 ○学校参観週間等の機会を活用し、教員間による授業参観を実施した。 ○道徳授業地区公開講座を、年2回実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活科の授業時数を増やした結果、児童の科学に対する関心・意欲の高まりが見られた。 ○基礎学習の時間は、漢字習得・計算力向上に大変効果があった。 ○午後学習は個別指導により、学力の向上に効果が見られた。 ○朝読書の時間設定は、読書の領域に広がりが見られた。 ○事実と情報(考えたこと)を区別して考えたり、客観的に思考したりできる児童が増えた。また、教師の指導力(問題解決的な考えを生かした指導)が向上した。 ○新学習指導要領の趣旨と先行実施内容に沿った研究を他教科に広げることが課題である。

2. 平成20年度区独自調査結果(小5)との比較・分析

<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ○区の調査結果から、平均到達度では、教科総合で区の平均をわずかながら下回った。また、「言語についての知識・理解・技能」については、区の平均を上回っているが、「読む力」「書く力」はそれぞれ少し下回った。また、基礎と応用の結果では、基礎は上回ったが、応用は下回った。 ○昨年度の調査と比べると、達成率が下がっている。詳しく見ると、「読む力」「書く力」がやや下回っており、昨年度と同じような傾向にあることから、読む力・書く力の向上については、今年度も大きな課題である。 ○18年度までの校内研究の成果として、「話す力」・「聞く力」は向上した。また、ブックフェスタでの取り組み、基礎学習の時間の設定により、国語全般の基礎的な力が身に付いてきている。今後は、補習の時間を利用して個別指導するなどの方策をさらに工夫し、これらの力をより一層伸ばしたい。 <p>算数</p> <ul style="list-style-type: none"> ○区の調査については、教科の総合で、平均到達度がわずかながら下回ったが、達成率では教科総合で大きく上回った。また、基礎的な力は区の平均であるが、応用についての達成率が低く、また、数学的な考え方が下回り、昨年度からの課題が解決していないという結果であった。さらに、数量や図形についての表現処理が、到達度で大きく上回ったことは、基礎の時間を使っての計算練習などの成果が現れていると考えられる。
--

3. 自校の課題及び平成21年度に実施する授業改善の方策等

	課題（内容別結果、観点別結果から）	授業改善のための方策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○「言語についての知識・理解・技能」については区の平均を上回っているが、「読む力」「書く力」は下回っているため、これを向上させる。 ○達成率における基礎と応用の結果では、基礎は上回っているが、応用は下回っているため、これを向上させる。 ○文学的文章や説明文的文章を読み取る力が弱いことから、これを向上させる。 ○自分の考えを整理して文章表現する力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝読書の時間20分を週に3回実施しているが、内容を検討し、充実を図る必要がある。 ○国語及び他教科の学習の中に、音読を多く取り入れていく。 ○校内研究で取り入れている言語活動の充実について各教科・領域で実施し、国語で育てた力をさらに伸ばすようにする。 ○様々な文章にふれさせ、語いを増やしたり読書の楽しさにふれさせたりする。 ○まとめの時間を設定し、学習したことを書く機会を設定する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○社会事象の基礎的・基本的な知識・理解が不十分であることから、これを向上させる。 ○考えたことを自分の言葉でまとめ、伝え合うことにより、互いの考えを深めていける学習が不十分であることから、これを向上させる。 ○観察・調査や資料活用を通して必要な情報を入手し、的確に記録する学習が不十分であることから、これを向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題把握の場面での教材の工夫・提示の工夫により、問題意識を高め、児童が、自分の問題として学習に取り組めるようにする。 ○日常生活に関心をもち、問題意識を高めるために、ニュースを集め、新聞にしたり、トークタイムの話題にしたりする。 ○コンピュータを利用して、調べ学習の資料収集や発表をさせたり、その時間を設定したりする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎については区の平均である。応用については達成率が低いことから、これを向上させる。 ○数学的な考え方については、区の平均を下回ったことから、これを向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数指導における習熟度別グループ編成を充実させることで、個別指導を多く取り入れ、基礎・基本の学習内容を確実に身に付けさせる。 ○授業の中で言語活動を充実させ、方法を図で表したり、いろいろな方法を考えて、発表する時間を多く設定したりすることにより、より確かな理解をさせる。また、同時に数学的な考え方を身に付けられるようにする。 ○基礎学習の時間・午後学習の時間を利用し、個別指導を充実させる。 ○個別の具体的な操作活動を多く取り入れる。また、問題把握に十分な時間を設定し、一人一人が自分の問題として取り組めるようにする。

理科	<p>○科学的な見方や考え方が問題解決活動の中で身に付いていない児童が多いことから、これを向上させる。</p> <p>○学習内容を日常生活と関連付けて考える力が弱いことから、これを向上させる。</p> <p>○言語活動の重視・体験の充実・生活科との関連については、学力向上に結び付けて考え、指導する必要がある。</p>	<p>○夏季休業中にサイエンスフェスタを実施し、児童の科学への興味・関心を高める教員の指導力、及び科学的な見方や考え方を身に付けさせる指導力を高める。</p> <p>○理科ノート・自然日記・トークタイムなどを通して、日常生活との関連への関心を高める。</p> <p>○指導計画の中に一単位時間の話し合い活動を設定し、仮説を立てる場面・結論をまとめる場面で互いに討論させ、科学的な見方や考え方を育てる。</p> <p>○問題解決の流れを振り返ることができるような記録を、自分なりに工夫して書く。また、それを使って発表できるようにする。</p> <p>○豊島区教育委員会教育ビジョン推進校としての研究成果を活用する。また、理科支援員の活用を図る。</p>
問題解決	<p>○問題解決能力等に関する調査の結果では、都の平均を少し上回ったものの、豊島区の平均をわずかながら下回った。その内容としては、「問題を発見する力」「見通す力」「適用・応用する力」で、「問題を発見する力」「適用・応用する力」は特に課題である。</p>	<p>○校内研究で取り上げている「言語活動の重視」をより進め、児童一人一人が問題解決活動を自分の力で行えるようにする。</p> <p>○情報の整理・読解力を高めるために、図に表したり、表を作成したりするなどして、児童が、思考する必要性を感じられる授業を進める。</p>

4. その他

<p>(1) 指導力の向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職経験年数の少ない教員と、東京教師養成塾生1名が参加する勉強会を定期的実施する。 ○教師間で授業参観の機会を設定し、研究授業・事前の授業・合同授業・参観週間の相互参観を通して授業力向上を推進する。 ○児童に対するアンケート形式により、児童自身による授業診断を複数回実施する。 <p>(2) 学力向上の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○週3日の午後学習、長期休業中の補習により、基礎・基本の学習を充実する。 ○活用力を養う時間を意図的に設定する。 ○休業日などに学力向上のための機会を設定する。今年度は、土曜チャレンジ教室・サイエンスフェスタ・補習などを実施する。 <p>(3) 家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者会・個人面談を土曜日に実施し、家庭との連携強化のための機会を増やす。 ○児童の家庭での生活実態を調査・集計・分析し、改善に向けての方策を各家庭に伝えるとともに、家庭と連携した学力向上に努める。 ○家庭での学習や読書を充実させるための時間を確保するために、ノーテレビウイークを児童や家庭へ呼び掛ける。
